

塩竈みなと祭

内閣総理大臣賞受賞

一般財団法人地域活性化センターが実施している「ふるさとイベント大賞」において、全国各地の応募の中から「塩竈みなと祭」が今年新たに創設された『内閣総理大臣賞（大賞）』を受賞しました。

塩竈みなと祭は、戦後の昭和二十三年に産業振興と市民を勇気づけるために始まり、志波彦神社・鹽竈神社の二基の御神輿を乗せた御座船「龍鳳丸」「鳳凰丸」が百隻もの供奉船を従えて、日本三景松島湾内を巡幸する海上渡御が勇壮な祭り、日本三大船祭りの一つに数えられています。

伝統民謡である「塩釜甚句」をモチーフにした「よしこの塩竈」の踊りコンテストが行われる陸上パレードには、三千人以上が参加しています。また、前夜祭では花火大会や縁日広場が開催され、市民総参加の祭りに発展しています。

※「ふるさとイベント大賞」とは、全国各地で行われている地域の活力を生み出すイベントを表彰し、地域固有の風土・伝統・暮らしを守るとともに、故郷に対する愛着と誇りを育み地域の活性化を図ることを目的に開催されています。



11月26日
内閣総理大臣官邸にて

安倍総代理で菅官房長官より表彰され、会場でも、よしこの塩竈の踊りを披露しました。授与された賞状および楯はJRB塩釜駅前の塩竈観光物産案内所に展示しています。



塩竈みなと祭が評価された点

- 例祭行事に合わせて行われていた神輿渡御が、豪華絢爛な海上渡御を行う祭りとして発展した。
- 「塩釜甚句」がうたわれる中、重さ一トンの御神輿を担いで二〇二段の急勾配の表坂を上る姿は、人々の五感に訴え、祭りの祝祭性を浮かび上がらせている。
- 東日本震災で中止の危機に迫られたが、継続して実施。被災地の復興の象徴となった。
- 地域住民やボランティアの積極的な参加と協力体制の確立。
- 運営は、地元青年四団体の地域の若い担い手を中心となり、共同で企画し実行。
- 震災後、支援をいただいている多くの自治体が祭りに参加するなど、さまざまな交流や連携が行われ、さらに将来の発展性が期待できる。

塩竈みなと祭協賛会



実行委員長 阿部勤九郎
塩竈みなと祭がこの度「内閣総理大臣賞」を受賞できたのも、みなと祭の誕生からこれまでの長きにわたり支えてこられた先人たちははじめ、毎年多大なご支援ご協力を下さる市民の皆さまの努力と熱意があったからです。今回の受賞は大変名誉なことではありますが、

私たちは、この喜びを胸に、今後さらにみなと祭を発展させ、次の世代に引き継いでいかなければなりません。塩竈みなと祭がいつまでも魅力あるお祭りとして一〇〇年、二〇〇年と続いていきますよう市民の皆さまのご理解ご協力をお願いいたします。

塩竈みなと祭協賛会



事務局長 志賀 重信
今回の大賞受賞を励みに、みなと祭がさらに市民の皆さまに密着した参加しやすいう祭りとなるよう協賛会としても取り組んでまいります。今年も7月の海の日、「第68回塩竈みなと祭」が開催されます。各青年団体が昨年を上回る内容で企画しますので、ぜひ皆さまご参加ください。

塩竈よしこの連



顧問 深沢 泉
ふるさとイベント大賞は、奉祝行事に携わり、ふるさと塩竈の祭りを盛り上げていく市民の皆さんを表彰するものと理解しています。表彰式次第の中に演舞披露があり、神輿渡御や前夜祭、パレードの映像が映し出される中で、震災復興の願いを込めて踊りました。大受け！たくさん笑顔と拍手をいただきました。

問 観光交流課 ☎ 364-1165